独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

対象：通常の学級の担任

※最新版は
https://www.nise.go.jp/nc/report_material/research_results_publications/leaf_series
から直接ダウンロードできます。

特別支援教育リーフ Vol.9

感情をコントロールすることが苦手な子供の理解と支援

独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所

子供たちの感情の背景を探りましょう！

子供たちの感情の変化には、背景となる要因があります。その要因を探りながら、指導の工夫の意図や手立てを検討しましょう。また、子供たちの理解と支援のために、次のような流れで取り組んでみましょう。この流れは、各項目を行き来しながら、循環しながら進めてください。子供の思いや願いへの注目や、複数の教師による連携が子供たちへの支援の充実につながります。

◆困難な状況の背景となる要因を整理

目立った行動だけではなく、普段の言動にも注目して総合的に実態を把握しましょう。

◆手立ての検討・実施

学習集団における個に応じた指導や、本人を対象とした個別的な指導といった学習環境にも注目しましょう。

◆手立ての効果や状況の変化を子供と確認

教師の手立てを子供に確認することで、子供の思いや願いを把握しましょう。

感情のコントロールが苦手かな？　と思ったら・・・

感情のコントロールが苦手な子供の背景となる要因を整理するための視点の例をいくつか紹介します。

【環境への注目】
- 学習環境は、音や光などの刺激が強くなっていないか
- 食事や睡眠、排せつといった欲求が満たされているか
- 学習活動への見通しがもてないなど、不安なことがないか
- 周囲の子供とのトラブルがないか
- 子供の特性に応じた手立ての過不足がないか

【子供の感情への注目】
- 注目してもらいたい、かまってもらいたい気持ちを抱いていないか
- 早く活動をしたい、活動をやりたくない気持ちを抱いていないか
- 予期していたことと異なる、思い通りにならない状況が生じていないか

【積み重ねた子供の感情への注目】
- 過去にあった嫌なことをひきずっていないか
- 自分の行動を振り返ることに困難さがないか
- 自分のことを著しく低く評価していないか

これらの視点は、子供に関わる複数の教師等で確認することで、より客観性が高まります。同じ学年や教科、特別支援教育コーディネーターなど、校内での連携を心がけましょう。

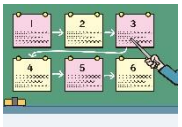
かんしゃくを起こすＡさん（小学５年生）

Ａさんは、授業中に何をすればよいかがわからず、イライラすることがあります。また、気に入らないことがあるとすぐにかんしゃくを起こします。Ｂ先生がなだめると余計に興奮して「うるせえなあ」などの乱暴なことばを繰り返します。このような状況の改善に向けて、Ｂ先生は、次のような取組をしました。

◆困難な状況の背景となる要因を整理

- 教師が口頭で指示した内容が理解できていない
- 家庭や学校ではしばしば叱責され、周囲からは否定的に見られている
- 「どうせだめだよ」などのことばをよく口にしている

◆手立ての検討・実施



＜日常的＞

- 教師の指示をメモや流れ図など、視覚的に示すことで、Ａさんが主体的に学習活動へ参加できるようにする
- 時々、指示の内容が理解できているか声をかけ、理解できている場合には称賛する

＜かんしゃくを起こしたとき＞

①気持ちを十分に受け止めて落ち着くまで冷静に待つ。落ち着いたら一緒に状況を整理し、どうすべきだったかを考える

> 感情が高ぶっているときに厳しく叱責したり、優しくなだめたりすることで逆効果になる場合があります。優しく接することで、教師の注目を獲得することができ、同じことを繰り返してしまう場合があります。

②Ａさんが気持ちを落ち着かせる場所（教室の近くの空いているスペースなど）を用意する

> かんしゃくを起こした場所や、人が大勢いるような場所では気持ちを落ち着かせることが難しいことがあります。

③学校全体で対処方法について考え共通理解を図る

> 興奮が強くなるとその勢いで教室を飛び出してしまうことがあります。そのような場合、担任だけでは対処できないこともあります。周囲との連携が必要になります。

④不注意等の特性に配慮してＡさんが成功体験を積めるようにする

> 不注意等の特性によりうまくいかなかったことが、かんしゃくのきっかけとなることがあります。特性への配慮を通して、Ａさんが成功体験を積める機会を増やします。

◆手立ての効果やＡさんの状況の変化を確認

かんしゃくに対する手立てや配慮に対するＡさんの考えを聴く機会を設けたり、Ａさんの状況の変化についてフィードバックしたりすることで、次の手立てや配慮の参考にしましょう。

☆さらなる理解のために☆

子供への声かけ

教師が子供へ「手立ての効果や状況の変化」を確認するための声かけが、両者の思いや願いを伝え合う機会となり、指導や支援の充実につながります。また、子供への「得意なこと」「苦手なこと」の気付きの促しや、苦手なことへの対処の検討などは、次の指導や支援の参考となります。このような声かけや対話によって、子供の学習に対する意欲やモチベーションの向上、主体的な学びへの発展が期待されます。さらに、このような教師による子供への関わりが、子供にとって安心につながり、学校生活全体に好影響があると考えられます。

校内の教師や関係機関との連携

通常の学級では、複数の教師や特別支援教育支援員等が連携しながら指導や支援が行われています。複数の教師との連携により、困難な状況の背景となる要因の整理や、手立てや配慮への客観性が高まるとともに、具体的な指導や支援を多面的に検討することができます。例えば、子供たちの「学習活動への参加」や、「学習内容の理解」といった視点について、互いの「役割」や「協働」を意識しながら検討できると、さらなる理解につながります。

子供の状況によっては、特別支援教育コーディネーターや、通級による指導担当者、特別支援学級の担任と連携して指導や支援を検討することや、特別支援学校のセンター的機能を活用するなど校外の専門家との連携も考えられます。

＜参考情報＞

〇独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所　「発達障害教育推進センター」

発達障害のある子供の指導や支援に関する情報を掲載しています。このリーフレットは、同サイトの「指導・支援」の内容を参考に作成しています。

〇国立障害者リハビリテーションセンター・厚生労働省・文部科学省・国立特別支援教育総合研究所共同運営　「発達障害ナビポータル」

家庭と教育と福祉の連携「トライアングル」プロジェクトにおいて、教育と福祉が連携・協働するために必要となる情報や、医療・保健・労働分野に関する情報が掲載されています。

〈参考文献〉

〇独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所，改訂新版 LD・ADHD・高機能自閉症の子どもの指導ガイド，東洋館出版社，2013．

独立行政法人
国立特別支援教育総合研究所
NISE National Institute of Special Needs Education

★ＮＩＳＥのホームページ
https://www.nise.go.jp/nc/

編集　情報・支援部
ＴＥＬ　046-839-6803（代表）
初版発行　令和５年１１月